1988年5月27日(金)№30

駱迎菴

天理市立[redacted]小学校5年1組
発行人／草尾佳秀

日記抄

本格的にクラブ活動はじまる!!

"草尾先生のいやしん坊ばんざい"

冨山悦子

☒五月二十四日

きょうのクラブではクッキーをつくりました。まじをのばしてかたちをつくって、かざりつけをして、あとはやいてできあがり。しばらくして、どれくらいまったのかしらないけども、先生が、「できたよ」っていったので、どたどたっておさらをもってはしっていった。おさらに入れて、さあかえろ。きょうしつにかえったらみんなあつまってて、いっしゅんドキッとした。先生が、「クッキーのにおいがする」っていったので、うつぶせになってしまった。「先生のいやしんぼう」わたしはこころの中でそうおもった。先生が、「こういうときに、冨山さんひじんとかいって」っていわらったので、はずかしくなってしまったんだぞ、バーカ！　でも、きょうのクッキーはできがよかったです。先生にあげようと思ったけど、かずがすくなかったのであげらんなかったけど、ごめんね。またこんどなんかつくったらあげるからね。

追立有香

☒五月二十四日・クラブ

手芸クラブでわたしたちは個人でやることになった。わたしは広井さんといっしょに作ることになった。マスコットとかばんをつくることに決めた。わたしはうさぎのマスコットを作る。かばんには、「きれにしゅうするの」と聞くと、「もようの入ったきれにするに決まっているやんか」と広井さんがいいました。来週からはじめます。楽しみだなあ。

澤井かおり

クラブ発展編。

☒五月二十六日・クッキー

今日、森本さんとすずきさんとなっちゃんと四人でクッキーをやきました。みんなでいっしょうけんめいねってかたちづくりをしました。かざりをつけてチョコレートをのせたりしてつくりました。はじめやいたのはだいしっぱいでした。またつくりなおしました。二回目はすずきさんのいえでやくことになったので、すずきさんのいえでやきました。こんどはだいせいこうでした。ハート形や花形がとってもきれいにやけました。（二十六日の朝、ぼくはそれをもらいました。やったね。クッキングクラブ大すき。）

"ねうちのあるネタ"に目を向けるということは、"ねうちのある生き方"に目を向けることであり、"ねうちのある生き方"に向けてはげますことである。

1988年5月28日(土)№31

駱迎菴

天理市立[redacted]小学校5年1組
発行人／草尾佳秀

西嶋寿糧 詩人になる!!

結局逆上がりはできなかったけど、彼はできなさを逆手にとって、すっかり有名になったのでした。

―できないことをくよくよするより
それを利用するエネルギーこそ人を育てる―
（草尾先生のことば）

ざか上がりの練習

西嶋寿糧

「明日スポーツテストや」
夜 思い出したように
母さんに言った
「あぼやな
もっとはよ言うたらよかったのに」
母さんが言った
それから
小林の公園に行った
なかなかできひん
「じょそうしい」
「よし」
じょそうしてやった
「おしい」
母さんがはげましてくれた
おしいところまでいったが
やっぱりできない
「もうちょっとや」
「明日、がんばるから……」

スポーツテスト

西嶋寿糧

もんだいのさか上がりだ
きのうした練習のせいかが
出るかな
ぼくの番がきた
てつぼうをもった
手の内側があせでぬれている
思いきって地面をけった
足があがった
「いけ」
心の中でいのった
足が鉄ぼうの向こう側に
行かない
「ドタッ」と足が落ちた

▨ いかがでしょうか。なかなかのできだと思いませんか。どちらも日記を通じてできないことがすてきなことのように思えてきて詩にしてもらいました。読んでいるとくるからふしぎなもんだ。西嶋くんに、か・ん・ば・い!!

1988年 6月2日(木) №34

蟇辺藩

天理市立[redacted]小学校5年1組
発行人 ／ 草尾佳秀

日記抄

六月も
主役をとれるか
西嶋くん

☒六月一日　　冨山悦子

きょうのひるやすみ、きゅうしょくのおわったすぐ、西じまくんがのこしたくてのこしたくて、先生におせじをしにいった。「先生かっこいいわ」くさおせんせいは、「わかりきってることやんか」といったので、西じまくんはがっかりしてかえってきた。わたしは、「先生におせじゆってのこさしてもらおうと思ってんやろ」っていったら、「うん」といったので、木村くんとおおわらい。「もう一回ゆってきたら」っていうと、「ぜったいつうようせいへんし、いったってむだや」っていったので、「ぶっ」ってふきだしちゃった。

☒六月一日、先生見てたら野球に集中できひんで　　西嶋寿糧

今日は水曜なので野球の練習だった。ぼくはユニホームに着がえ、学校にいった。たいいくかんの前に先生がいてた。見つからんように歩いていった。練習がはじまってキャッチボールの時だ。中谷先生と草尾先生がきた。中谷先生はクラスの子とキャッチボールをした。草尾先生はぼくの方を見て悪口を言っている。ぼくがとると、先生が、「入った、入った」と言うし、キャッチボールしてたこ状上になげて、ぼくがとれへんかったら、先生が、「あれはどっち悪いんやろう」と言った。ぼくはおちつかなかったし、野球に集中できなかった。それでボロボロした。先生はへんな目だった。先生が向こうへ行った。「ほっ」とした。やっぱり先生がいいひんかったら集中できるわと思った。「ああ、先生のせいでつかれた。つかれた」

▨五月下旬、さか上がりでクラスの話題を独占(?)した西嶋くん、六月に入ったばかりの一日、はやくも六月の主役になろうとがんばっているのであります。

給食後のことは、西嶋くんが何を言いたくて来ているのか知ってました。もうちょっと頭を使え。野球のことは本人のめいよのために言わないけど、たびたび幼稚園との間のネットの方へ走ってはりました。

今週に入ってから日記の数がへっています。まってますよ。

— 72 —

"ねうちのあるネタ"に目を向けさせる指導には、みんなに学ばせたいネタの日記が出てきたら、とにかくみんなに紹介してやることです。クラスの中になければ他学級、他学年、他校となんでも使いましょう。ときには、これという作品を視写したり、生き方を話し合ったりするのも大事です。

1988年 6月14日(火) №39

蟇辺藩

天理市立[redacted]小学校5年1組
発行人 ／ 草尾佳秀

日記抄

なかまのすばらしさを
すなおに見られる
目がすばらしい!!

☒六月十三日　　冨山悦子

きょうはにしじまくんがオルガンをひいていたのでみたいったら、すぐにやめてしまいます。「そっからひけへんの」ってきいたら、むしゃくしてにげました。しばらくしてまたひきにいったので、とおくからきいていました。そしたら田中くんが「うまい」っていったので、またにしじまくんはやめてしまいました。「もうすこしでぜんぶひけたのに!」っておもいました。にしじまくんはわたしよりうまいと思う。男の子であれだけひけるこってクラスではあまりいませんね。いつもへんなやっぱっかしでね。

▨このごろ冨山さんの日記登場しすぎかな。冨山さんの生活を見る目がとてもいいです。なかまを見る目もとてもいいです。なかまのよさを素直に認めてそれを書きとめておく。みんなで学びたいことです。すばらしいと言えば、吉来さんのくらしぶりもそうです。何かを求めて前向きに生きている。そんな姿に学びたいです。

☒六月十三日、やさいくらべ　　吉来雅子

「畑かりられる」という言葉に、わたしは、(どんなものが作りやすくていいんでろう)と早くも考えはじめた……家に帰るとさっそくおじいちゃんに「今なえをうえるものってなんやの」「そうやなあ、あっそうや、さつまいもがいいで、虫もつきにくいし」「でも、つるあんの」「いけるやろ」わたしは、前、プチトマトのことをおじいちゃんに話したら本当になえをもってきてくれたので、(もしかしたらいものつるもってきてくれるんちゃうか)と思った。

☒もんくがいいたいコーナー　悪口・ぢげでばなく、すなおなかまになるために…

冨山さんいわく、「ぜんせい、『もんくがいいたい』っていうコーナーをのべばなにつくってよ。わたしね、いろいろあるのよ。男の子がうるさい、だまれ口っていったりするけど、じぶんのこえのほうがうるさい、なのにたくさんあるのよ。ぜんせい、ぜひつくってほしいの。わたし、もやもやなきもちになるの。おねがいしまあす。」

— 77 —

1988年 6月15日 №40-1

野辺花

天理市立[redacted]小5年1組
発行人 ／ [redacted]佳 秀

日記抄

おじいちゃんなくなる!!

六月十日、おじいちゃんがなくなった

吉岡真希

今日、おじいちゃんがなくなりました。前にさいたに行ったのは、おじいちゃんが病気だったからです。とつぜん電話がかかってきて、おばあちゃんがあわてていました。そして、お母さんがタオルでなみだをふきとっていました。わたしも半分なきました。お母さんはなき虫じゃないので、わたしの前でなみだをみせたのは二回目でした。とてもショックだったのか、目を赤くしていました。わたしはお母さんがなくと、ついわたしまでないてしまいます。夜、車にのってお母さんを見ていると、ほろほろなみだをながしていました。

六月十一日

吉岡真希

朝の四時すぎごろ、おばあちゃんの家につきました。お母さんは、おじいちゃんの顔を見るとまた、うさぎの目をしてなきだしました。おじいちゃんの顔も見ると、もう一度生きていたかおを見せてほしかったなと思いました。今日はおつやです。すごい人がきて、おきょうをあげました。でもみんなは口をうごかしませんでした。おきょうをいっていたのは、よこのおばあちゃんでした。おぼうさんは、おじいちゃんが「ガン」といいました。わたしはびっくりしました。でも、知らなかったのはわたしだけでした。おきょうがおわったあと、いろいろたくさん食べ物がでました。わたしは、あまり食べることがありませんでした。

六月十二日

吉岡真希

今日は、おそうしきでした。きのうよりも人が多かったです。最後におじいちゃんのところにきくの花をそなえました。そして、やきばに行きました。とても広いところでした。お別れに顔を見て、全体をやきました。わたしはいつもねむかっていたのに、天国へいってほしいとそればかりねがっていました。そして、やいている間にみんなは食堂へ行きました。でも、しょくよくがなくて、なにもたべたりはしませんでした。

たとえば吉岡さんが書いているような日記が出てきたら、ぜひとも個別指導(ひざもと指導などという言い方もある)をしよう。思い出しなおしをすることによって展開的過去形で綴られた一篇の作品に仕上げよう。大事なことをしっかりと書きとめておくことが、しっかりとした生き方につながる。

そして、もう一人きて、あとから五人きてはしりまわっていました。それからずっとおわりました。そのとき、おじいちゃんのほねが目につきました。とっても白くてつくったようなほねでした。はっきりみたのは、外側がこげて、まんなかはしろいのあずみたいなのがありました。でも、どこがどこだかわかりませんでした。長いはしでほねをつかみました。そのとき、とってもほねがたくさんありました。

六月十一日、「花」

森本育代

今日、朝、うち所の犬の花が車にはねられてしにました。今日の六時三十分ごろでした。私のお母さんが仕事に行って、さんぽに行って、さんぽがおわって家にはいって五分ごでした。私のお母さんは、花のなき声が「キャンー」というなごえがきこえたから、外に出てみると、車にはねられていて、それから十分ごにはなくなりました。私とお母さんといもうとと、もう花とはわかれたくないといって、えんえんなきました。私はかなしくてかなしくて、みんながなきおわっていても、私一人でないていました。はじめは学校も行きたくなかったけど、花が見まもってくれると思って、学校に行きました。花とすんで一の月もたっていないというのに、ひいたトラックをうらみたいです。私の花はみがわりになってくれたかもしれない。かなしいな〜。

別れ

「別れ」というのはさびしいものだ。そしてまた悲しいものだ。まして、それが二度と会うことのできない、別れだとするとなおさらのことだ。それは動物でもれ、人であれ、同じことだろうけど、人の死は重く感じる。

去年の六月十二日、ぼくのおばあちゃん(曽祖母)がなくなった。九十二才だった。家族の死を初めて体験したその日、ぼくは生きていることの意味(命の重みとでも言うのだろうか)をあらためて考えていた。なくなる前の数年間、一年をとうと何もいらん、やっぱり言葉だけやし」とよく言っていた。「小さいころは大事にしたったのに……」とも言っていた。「……」の部分は、やさしい言葉のひとつもかけてくれないと言いたかったのだろう、そう式をすませてから、しきりと彼のいした。

吉岡さんの日記を読んでいると、不思議なほどに悲しみが伝わってくる。お母さんのすがたを書いている部分が特にいい。思ったことをほとんど書かず、したことをそのままに書いているところが特にいい。そのことがいっそう悲しさを大きくしているのだと思う。

1988年 6月15日(水) 第11

野辺菴

天理市立[redacted]小学校5年1組
発行人 ／ 草尾佳秀

日記抄

杉野君の少年たんけん隊

杉野悟

◇六月九日

今日、木村くんと川で木をながしてきようそうをしていました。そして、はじめはすこしかっていたけど、木村くんの木にまけて、だいぶとキをあけられました。でもおいついてきて、最後にはぼくがだいぶとのさをあけました。そして、木村くんが、「この川のトンネルいこう」といったのでいきました。ぼくはかたあしだけはだして、そのはだしの方で川をあるいていきました。光がみえるのでいったら、食のあみみたいなところでした。そして木村くんがのぞいてみると、自転車がとおったのでびっくりしていました。そしてぼくは、と中からりようほうともはだしになっていました。そしてずっといくと、川のながれがすこしはやくなったから、ひざまでつかってしまいました。そしてそとにでたら、きむらくんのあたまにくものすがついていたので、「とったるわ」といってとってあげました。そして木村くんのいえであしをあらわしてもらいました。川をとおるのはすこしだけどこわかったです。

▨ ぼくも子どものころ、よく川を渡いたものだ。ふだん生活している場所より何メートルか下から見る世間というのはなかなかいいものだ。気持ちもいい。ただ近ごろの川は何がすてあるかしれないから、あぶないけどね。

◪ 告白コーナー

◦ いつも朝学校にくるとしょくいんしつをのぞきます。そして五年生の先生にっおはようしと言って教室に行きます。先生はいつも教室にはいってすぐに「おはよう」といいます。でも急に入ってくるととってもおどろきます。私は何でもすぐにおどろくほうです。だからびっくりさせられるとしんぞうがドキッとなります。（T さん）

◦ 私、五年生にもなっているのに、明日ぜんかあるとこっそりと夜てるてるぼうずと「明日天気になあれ」っとかする。みんなのいてるときしたらなんかはずかしいから。（Y さん）

▨ 近々、またもや新しいコーナーができる予定です。ごきたいください。（編集長）

— 80 —

この子にはこのネタをという、どうしても書かせたいネタがあります。それを見い出すのは教師の仕事だろうと思っています。森本さんには、「かわいそうだ」と書いている母の生きざまをしっかりと綴らせたいと、この時から思うようになりました。それについてはまた後日。

1988年 6月21日(火) 第12

野辺菴

天理市立[redacted]小学校5年1組
発行人 ／ 草尾佳秀

日記抄

肉のおいしいところはおなかとせなかです

鎌田雄

◇家の人の仕事紹介コーナー

◇六月二十日

ぼくのおとうさんのしごとは、肉やです。肉は、牛肉がたかくてぶた肉のほうがやすい。おとうさんのいっているところは、外国の肉がありません。全部日本の肉です。おとうさんに肉のおいしいとこどことさくと、「おなかかせなか」といっておしえてくれた。肉どっかにたのんでもってきてくれます。もってくるのをまっているあいだは、ながいのでかえってくるのがおそくなるときがあります。お正月のときはあまりさやくかこないといっていました。

◇六月十八日 お母さんの仕事　森本育代

私のお母さんの仕事は、毛皮の仕事です。まい日、朝の五時から、ゆうごはんを食べてから八時ごろまでしています。いまは、うさぎの皮でつくられたくびまきやぎんぎつねの皮でつくったポシェットを作っています。いまは夏です。だから、毛皮の中でまい日仕事をがんばっているお母さんを見ていると、かわいそうだなあと思います。だから、お手つだいをしっかりやってあげようと思います。お母さんがんばってほしいです。

▨ 新しいコーナーです。このコーナーを使って家の人の仕事をどんどん紹介して下さい。待っています。

◪ 告白コーナー

◦ はてなくんがそこに合宿のねる時に、「女の所に行ってぱふぱふしようぜ」と言っていた。↑これはてなくん、中が校へ行ってすぐにぱふぱふしてる　（とく名きぼう）
　　て見つかったのであります。

◪ もんくが言いたいコーナー　↑これがもんくのコねこみぜんせいあのね」に通じる世界ですね。

◦ どうしてせんせいたちはしふくをきているのに、わたしたちはせいふくなの！ずるい！　がっこうでおかしをたべたらおかんつっていっているくせに、せんせいたちってかいぎのときたべたりのんだりしているやないの。もんくがいいたい。（いもの子さん）

— 81 —

■計画的な綴り方（作文）指導■

「計画的な指導」とは、本来的には、国語科の年間指導計画に位置づけて行う作文指導のことである。

私は、『現代つづりかたの伝統と創造』（国分一太郎　1982 年）と『日記指導と生活綴方』（橋本誠一　1979 年）から多くのことを学んだ。国分さんは１９１１年生まれで、先の著書が出版された３年後に亡くなられている。私にとっての国分さんは、理論的支柱だ。一方の橋本さんは青森の人で１９３０年生まれ。私は、１９８０年に岡山で氏の実践を聞いた。５０歳とは思えないエネルギッシュな人で、確か学級開きの日のくだりだったと思うが、「『大』という字は、なぜこう書くか知ってるか。」と言うなり、机の上に両手･両足を広げて立ち上がられたのを今も鮮明に覚えている。それは、子どもたちを学びの世界の引き込む、鮮やかな技だった。それはともかく、私にとっての２冊のバイブルは今や絶版となってしまっている。

以前の教科書は、不十分ながらも系統的な作文指導をめざしていた。だから、年間指導計画を修正すれば、作文指導に充てる時間を確保できた。しかし、今般の教科書ではそれは難しい。したがって、年間計画の中に指導の時間をつくるか、「常日ごろの指導」に「計画的な指導」の要素を持たせるか、何らかの工夫をしなければならない。ーーというのが客観的な状況である。当面の目標としては、すべての教室で「しっかりと思い出して展開的過去形で綴る」力を育てることをめざしたい。

次に、「計画的な指導」における記述指導を意識しつつ、「常日ごろの指導」の日記指導を行った５年生１学期の記録を紹介します。学級通信をそのまま（と言っても、元々はＢ４袋とじのレイアウトですが）掲載しますので、参考にしてください。

■■小学校5年・学年つうしん

蒲公英

2003. 4. 21（月）

No.3

「日記を書こう」シリーズ①

アンテナを張って生活しよう

１週間日記の宿題が続いた。ある人が、書くことがなくて困っているという日記を書いていた。習い事や買い物などに行ったことと、遊んだことが、「題材」の多くをしめている。そうしたことのなかった日は、「書くことがない」となってしまう。ところが、日記のネタというのはどこにでもあって、しっかりとアンテナを張って生活していると、実にたくさんの「書くこと」に出合っているのだ。紹介しよう。

「家のくらし」編

四月十七日　わらび　上田美沙

今日、おばあちゃんとわらびをつみに行きました。森みたいな所に入ったりしました。半ズボンだったので少しかゆいし、いたいでした。

わらびは、大きいものも小さいものも中くらいのものもありました。三十センチぐらいのから十センチぐらいまでありました。

とてもたくさんとりました。たくさんとったらとてもおもたかったです。でも、たのしかったです。

四月十六日　料理　小西優美

今日、お母さんのお手伝いをしました。そのお手伝いとは、料理を手伝いました。私が何をしたかというと、最初はハンバーグを焼きました。ひっくり返すのがむずかしかったです。ハンバーグをフライパンに入れるのは、こわかったです。

次に、サラダの味つけをしました。まず最初に、さとうを入れます。そして次に、すを入れます。最後に、マヨネーズをたっぷり入れます。最後に、なっとうにたれを入れたり、なっとうを皿に入れたりしました。最初はなっとうを入れただけでまぜました。まぜにくいでした。たれを入れてもう一度まぜました。そしたらかん単にまぜられました。また、料理を作ったりしたいです。

四月十七日
ハンバーグ作り
今谷沙希

今日、夜ご飯がハンバーグだった。私は、ハンバーグのミンチをこねた。
最初にミンチだけでこねた。次に玉ねぎを入れてこねた。そして、たまご、塩、こしょうを入れてまたこねた。こねおわったら、こねたミンチをハンバーグの形にした。お兄ちゃんたちのは大きくした。お弁当に入れる分のハンバーグも作った。
お母さんに焼いてもらった。焼いたらすこし小さくなった。
みんなで食べたらおいしかった。みんなも、「おいしい。」と言ってくれた。みんなで食べるとすごくおいしかった。

四月十七日
たきこみごはんみそしる
村田里美

昨日、たきこみごはんとみそしるを食べた。たきこみごはんはおかあさんがしてくれて、みそしるは私がやりました。私は、ごはん一ぱいとみそしる一ぱいです。おにいちゃんとおねえちゃんとおかあさんは、二はいぐらい食べていた。すごいと思った。私も二はいたべようと思って食べた。二はいもたべると、おなかがふくらみました。たきこみごはんとみそしるが久しぶりだったので、おなかがふくらんだ。

四月十六日　ぜつめつ動物
大西耕平

テレビでぜつめつ動物のえいぞうを見た。ものすごくはくりょくがあった。そして、そのなかで一番大きいのは大ナマケモノです。でも、ものすごく大きくて目のまえへでてくると、きぜつしてしまうぐらいです。サーベルタイガーもマンモスもすごいはくりょくでした。

四月十七日
でんじゃらすじーさん
竹下健太

今日、でんじゃらすじーさんの本を読みました。とてもわらうマンガで、だれが見てもわらう本です。ぼくは、「わっははは。」とわらってしまいました。

家族と一緒に働いたこと、お手伝いしたこと、そしてテレビの番組や読書した本のことなども、みんな日記のネタになるんだ。いつもいつものことだけど、いつもよりちょっと心を動かされたことを、しっかりと書きとめよう。

■■小学校5年・学年つうしん

蒲公英

2003. 4. 21（月）

No.4

「日記を書こう」シリーズ②

アンテナを張って生活しよう②

きみたちは、１日のかなりの時間を学校で過ごしている。登下校の時間を合わせると、３分の１以上になる。友だちと過ごす時間や授業の中で、実にたくさんの「書くこと」に出会っている。登下校の途中でだって、やっぱり出会っている。ある人は、「やっと、都祁村の桜が咲いてきた」と季節の移り変わりを書きとめていた。これも大事な日記のネタだ。今回は「学校生活」にしぼって紹介しよう。

「学校生活」編

四月十七日　集会の練習

岡本瞳

今日、体育館で集会の練習がありました。きんちょうしました。私は、「はじめにグループごとにあつまって、グループの名前を決めてもらいます。」という言葉でした。

三年生の時も集会に入ったけど、もう二年たっていたので、少しはずかしかったです。本番になって私はドキドキしていました。その時は順番に言うことになっていて、私は四番目でした。

そして、私の番になりました。「はじめにグループごとにあつまって、グループの名前を決めてもらいます。」と言いました。練習の時はすこしくらかったけど、本番の時はましになりました。その時はほっとしました。これからもがんばっていきたいです。

四月十七日

理科の勉強

川端英樹

今日、五・六時間目理科がありました。米のことについて勉強しました。初めて知ったことは、ビーカーに塩を入れて米を入れると、うくやつはすてて、しずんだやつはつかうという方法でした。もっとすごかったのは、おふろに米を入れて芽を出させる方法でした。はやく芽をだしてほしいです。

四月十六日
そう合の時間
前川真澄

今日の五・六時間目はそう合の時間です。五年生でやることを考えていました。わたしは国さい交流か、外国に行ってみたいなあと思いました。（ちょっと無理そう）それで決まったのは、バケツいねです。バケツでできるので、学校でも家でもできるから、いいうえ方だと思いました。とくに、ふつうは機械やかまでいねをザクッと切るのに、ハサミで切るのがびっくりしました。早く植えたい。

四月十七日
理科の実験
前川真澄

今日の五時間目と六時間目、理科がありました。わたしは、お米のもみをむいたのが玄米だということを初めて知りました。前までは玄米ってなにかなあと思っていたけど、あまりふかく考えませんでした。それでなぜ塩水に米をつけるのかなと思ったけど、今日実験で全部わかりました。お米作りに前進。

四月十五日
メダカ
政俊行

今日、理科の教科書を見て、初めてしった。前から気づいていたけれど、水そうの中に変な物があった。

それは、メダカのたまごだった。

ぼくは、理科の教科書でメダカのいろいろなことがわかった。たとえば、メダカのオス・メスを見わけることができたり、メダカの赤ちゃんにはエサを指ですりつぶしてあげることなどがわかった。

ぼくは、メダカの係なので、メダカのことをよく知りたいです。

四月十七日
メダカ
政俊行

今日、初めてメダカのたまごを別の水そうにかえた。

メダカのたまご四つを入れかえた。一つだけのと、三つ固まってるたまごを別の水そうに入れかえた。

メダカの子どもも大きくなってきた。おとなのほうは、さらに大きくなった。だいぶぼくは、メダカのオス・メスがパッと見わけられるようになった。

メダカの赤ちゃんが生まれるのが楽しみです。

５年生になってわずかの間に、何とたくさんの学びとの出会いがあったのだろう。その出会いをきちっと書きとめている人がいる。すてきだ。振り返り書きとめることで、確かな自分の知識になる。

■■小学校5年・学年つうしん

蒲公英

2003. 5. 8（木）

No.9

「くわしく書く」ということ

７日の国語の時間に、「田植えをしたときのことを、その時の様子が目の前に浮かぶように書く」という勉強をしました。その際に、

① 10時30分から12時までのすべてを書く必要はない。自分が田植えをしている場面だけを切り取って書こう。

②「その時の様子が目の前に浮かぶように書く」ためには、したことをしたとおりに、しっかりと思い出して、時間の順序に従って過去形で書こう。しっかりと思い出すには、その時の手足や体の動き、周りの様子、会話などを手がかりにしよう。

という、２つのことに注意して書くように話しました。

初めて田植えをした　山本浩美

田んぼの中に、右足をつけた。にゆるっとしていて、下の方が冷たくて、上の方は少し温かかった。

ついに、両足を入れた。足の指の間にどろがぐにゅっと入って、少し気持ちわるかった。

山本さんの作文の書き出し部分を紹介しました。初めてはだしで田んぼに入った感触を、しっかりと思い出して書いています。いいです。

田植え　北出俊樹

足をどろの中に入れた。どろは思った以上にぬくかった。きもちわるいようなきもちいいような、びみょうなかんじだった。

なえを右手に持って、左手でなえをどろの中に植えた。

次に紹介するのは、北出くんの作文の書き出し部分です。植えるところが具体的です。ここが今回の作文で大事な所です。

最後に紹介するのは、阪上さんの作文の全文です。場面の切り取りがうまくできました。初めて田植えをした場面だけを切り取り、他はすべて捨てています。さらに、書きぶりも今回の作文では一番よくできていました。

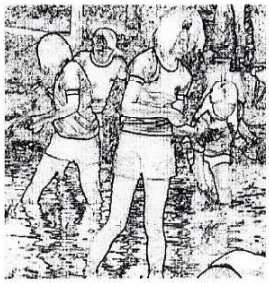
初めての田植え

阪上友貴

足にぬるっとしたどろがついた。私は、「キャー。」と言った。小西さんになえをもらって植え始めた。四角になるようにうめた。

なえを持って手をどろの中へおもいきっていれると、手がぬるぬるっとした。

次の列へ行こうとすると足が動きにくかった。バランスをくずさないように動くのは、とてもむずかしかった。なえを二、三本ずつ植えた。はばを開けて一つ一つていねいに植えた。どろが体操服にびちゃっと付いたり、足にもたくさんついた。それでも、まだ自分の場所は終わらなかった。すこしつかれた。でも、自分の場所はあと一、三列あった。小さな声で、「つかれたあ。」と言った。そう言っている間に、最後の一つ。心の中で、「やったあ。」とさけんだ。



さて、阪上さんの作文を使わせてもらって、「したことをしたとおりに順序よく書く」ということを勉強しましょう。とてもきびしい１時間になりますが、阪上さんは精一杯努力してください。ほかの人たちは、先生が何を質問し、阪上さんがどう答えるかをよく見て、よく聞いてください。授業の終わりには、阪上さんの作文はさらにさらにすてきになります。それでは、名物「ＫＵＳＡＯマジック」のはじまり、はじまりぃ！！

■■小学校5年・学年つうしん

蒲公英

2003. 5. 9（金）

№10

「くわしく書く」ということ（その2）

「蒲公英」№9で「KUSAO マジック」の洗礼（せんれい）を受けた阪上さんの作文は、はたしてどのように変わったのでしょうか。

初めての田植え

阪上友貴

足にぬるっとしたどろがついた。両足を入れるのは、努力がいった。私は、足にどろが付くのがきもちわるくて、「キャー。」と言った。

小西さんがなえをわたしてくれた。なえを右手で持って、二、三本ずつ植えた。はばを開けて一つ一つていねいに植えた。

次の列へ行こうとすると、足が動きにくかった。足がどろからぬけなかったからだ。左足からうしろの列へ行って、あとから右足もうしろの列へ動かした。バランスをくずさないように動くのは、むずかしかった。足を一歩うしろにさげると、どろが体操服や足についた。

自分の場所は、二、三列あった。となりのゆきちゃんの列を見て、あと二、三列あるとわかった。ゆきちゃんは、もう終わっていたからだ。

小さい声で、「つかれた。」と言った。ひざをまげて、こしを丸くしていたので、ひざはいたくて、こしもいたかった。

そう言って植えている間に、最後の一つを植えるところまできた。これが最後と思うと、「やったあ。」とさけんだ。じぶんでもがんばったなあと思った。

どうでしたか。

時間の順序が整理できた（その結果、段落の区切りがとてもよくなった）こと、書き足りなかった部分のいくつかを書き足してわかりやすくしたことなど、努力のあとがはっきりと見えます。Very Good !!

山本さんもバージョン・アップ

「KUSAO マジック」のすごいところは、その威力（いりょく）が他の人にもうつるという点にあります。№.９で紹介した山本さんの作文の続き（右を見て）と、「マジック」後の作文を紹介しましょう。

なえを手に持って、ついに植えた。ピッとさしたら、すぐにささった。でも、あながふかくて、なえがかくれてしまった。とちゅうでこけそうになった。でもこけなかった。少しあぶなかった。だって、後ろにさとみちゃんの植えたなえがあった。でもたおれなかった。

初めて田植えをした

山本浩美

田んぼの中に、右足をつけた。にゅるっとしていて、下の方が冷たくて、上の方は少し温かかった。

ついに、両足を入れた。足の指の間にどろがぐにゅっと入ってきて、少し気持ちわるかった。

小西さんがりょうを考えながら用意してくれたなえを、受け取った。左手になえを持ち、もう一度田んぼに入った。こしをぐっとまげて、ひざも少しまげて、植えた。

小西さんが、一列目だけ見本で植えてくれた。その列にあわせて、横へ横へ植えた。

後ろへ動くとき、少し足がどろにへばりついたようになっていて、ぬけなかった。かた方はくっついていなかったけど、かた方の足がぬけたいきおいで、もうかた方もくっついた。でもとれた。

次の列、次の列へゆっくりあわてずに植えた。とちゅうで、深くあいている穴があった。そこは周りのどろをあつめてうめて、植えた。

なえは、ピッとさすとすぐにささった。

だんだんとつかれてきて、思わず、「はあ。」と言ってしまった。

■■小学校5年・学年つうしん

蒲公英

2003. 5. 12（月）

No.11

「くわしく書く」ということ（その3）

「KUSAO マジック」はまだ続く。藤原さんの作文を紹介します。どちらもおしまいの９行分をカットして、場面を切り取っています。

初めての田植え

藤原佳子

ドロドロした所へ入るのは、少しこわかったけど、勇気を出して足を入れた。足がだんだんとしずんでいった。下のほうは冷たかった。足を動かすときに、なかなか足がぬけなかった。歩いていくと、ニュルニュルして気持ち悪かった。石もあって、いたかった。

初めての田植え

藤原佳子

右足から、田んぼに足を入れた。ゆっくり、田んぼの中にしずんでいった。下の方は、ひんやりとしていた。両方の足を入れたら、両方の足がゆっくりしずんでいった。

なえを左手にもって、右手でなえをうえた。手を田んぼに入れると、そこに土がなかって深かったから、土をもってきてうえた。一列が終わって、次の列へ行こうとおもって足をあげてみると、あがらなかった。五回ぐらい足を引っぱって、やっとぬけた。ぬけたけど、バランスが悪くてこけそうになった。でも、「こけなくてよかった。」と思った。

三列目、四列目になってくると、足やこしがいたくなってきた。でもがんばって、なえを全部植えた。心の中で、「やった。」と思った。

とてもていねいな記述（書きぶり）になりましたね。

手足の左右を意識して書いた人が増えました。先生が、阪上さんにそういう質問をしたからだと思います。「まなぶ」というのは、「まねぶ（まねる）」というのが語源だそうだから、いいと思ったことはどんどんまねてください。自分の書きたいことを表現するのに、本当にその記述が必要かどうかは、今は気にしなくていいです。

さて、今度は新谷さんの作文を紹介します。最初の作文は、青豆を

植えたところから４行分をカットしました。２回目の作文は、最後の２行をカットしています。

初めての田植え

新谷友紀子

田んぼに入るときがきた。私は、なえをもらって、田んぼに入った。入ったときは、すごいかんしょくだった。
そして、田植えが始まった。順番になえを植えていった。動くとき、少し動きにくかった。でも、だんだん楽しくなってきた。そして、植え終わった。

初めての田植え

新谷友紀子

いよいよ、田んぼに入るときがきた。田植えは初めてなので、少しドキドキした。
小西さんになえをもらって、田んぼに入った。田んぼに入ったときは、むにゅっとして気持ち悪かった。そして、なえを四角に植えていった。後ろに動くとき、足がなかなかぬけなくて、ひっしだった。
植えていっているうちに、だんだん楽しくなってきたし、なえを植えるのが早くなってきた。だから、何回もなえを取りにいって、植えた。
そして、最後の一本。「やったあ。終わった。」と心の中で思った。

とてもわかりやすい文章になりました。最初は「すごいかんしょくだった」と書いていたのを、「むにゅっとして気持ち悪かった」と書きかえました。「すごいかんしょく」では様子がうかんでこないけど、「むにゅっとして」と書くことで感触（かんしょく）が具体的になりました。

ところで、２回目の作文のカットした２行には、「田植えは初めてだったけど、とても楽しかった。５年生の思い出になった。」と書いてありました。みんなも日記や作文の最後によく書いていますよね。先生は、これはない方がいいと思います。「楽しかった」と書かないで、文章を読んだ人が「ああ、楽しかったんだなあ」と感じてくれるように書くことが大事だと思います。

■■小学校5年・学年つうしん

蒲公英

2003. 5. 12（月）

No.12

「くわしく書く」ということ（その4）

「KUSAO マジック」の最終回。「マジック」のタネあかし、いやネタあかしをしまょう。

今回の「KUSAO マジック」の正体は、「思い出し直し」といいます。最初の作文を書くときに、「しっかりと思い出して、順序よく書こう」と言いました。ところが、人間の記憶というのはあやふやなところが多く、大事なことでも忘れてしまっていることもあります。阪上さんの作文を借りて勉強したのは、大事なことを書き忘れてないだろうか、時間の順序はあっているだろうかと思い出し直すことだったのです。先生と阪上さんの話を聞きながら、みなさんは自分のしたことを思い出し直していたわけです。

こうした作業を「推敲（すいこう）」といいます。推敲には、余分な表現をけずるという作業もあるのですが、これはまた今度やりましょう。

岡本さんの作文を紹介します。書き出し部分に、「『めっちゃ入んのいややな。かまれたらめっちゃいややん。いたそぉ。』私は親友のさゆりとしゃべっていた。はっきり言って入るのはいやだった。」という４行があります。あってもいいのですが、田んぼに入ってからの会話の方がもっと大事だと思います。みんなの作文には話し言葉が少なかったです。

田植え　岡本瞳

いっかい手でさわってみた。田んぼの中は、にゅるにゅるで気持ち悪かった。

そして足を入れたとき、私の思っていたとおりのかんしょくだった。だんだん足をふみ入れていくと、足のうらがこしょばかった。

田んぼの中には、こん虫がいろいろかんでたから、ふくらはぎにあたって少しとりはだがたった。と中でこけそうになったからびっくりして、心ぞうがばくばくしていた。

（植え終えてからの十二行省略）

初めて体験した田植え

岡本瞳

いっかい田んぼの中を右手でさわってみた。すると、にゅるにゅるだった。小西さんになえをもらって左手で持ったまま、はだしになって、とうとう田んぼの中に入るときがきた。私は右足からずぼっと入った。下まで入ったら、次は左をゆっくりと入れた。田んぼの中はすねぐらいだと思ってたのに、ひざぐらいまできていた。私はなえをおとさないようにぎゅっとにぎりしめて、自分の列までふみ入れた。ようやくついて、私は左手に持っているなえを右手のひとさし指と親指で二、三本とった。そして、こしをまげ、足をひらいたしせいで、かるくなえを植えていった。

田んぼの中はこん虫がいっぱいいうかんでいたから、だんだん植えていったらふくらはぎにこん虫があたって、とりはだがたった。

と中でこけそうになったからびっくりして、心ぞうがばくばくした。

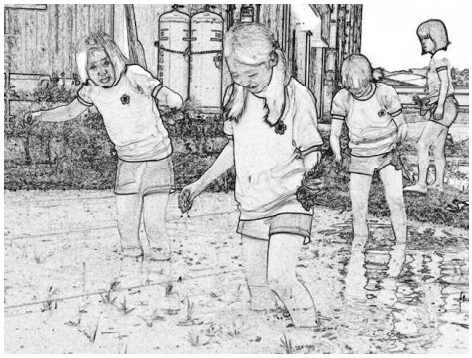
ちがう列にうつるとき、後ろにいる人が植えたなえをふんだり、人にかけたりしないように、ゆっくりと右足から後ろにさがった。

自分の列が終わったときは、もうみんなは地面に上がっていた。私も上がろうとしたけど、小西さんがしんどそうになえを植えていたから、私も少し手つだった。私はたりないなえをわたしたり、あいているところになえを植えたりするのを手つだった。

やっと手つだいが終わって、地面に上がった。上がったら、小西さんがきて、

「植えてる時と目つきがちがうな。」

と言われた。私は、「よかったぁ。」と思った。



今回のシリーズでは、最初に北出くんが出たっきりで、男子が登場しませんでした。女子の方が作文が上手だということではありません。先生の言っていることに精一杯こたえようとしてくれた結果だと思います。男子の「一生懸命」に期待します。

■■小学校5年・学年つうしん

蒲公英

2003. 5. 13（火）

No.13

「くわしく書く」ということ（その5）

会話文を入れる練習をしました。

話し言葉を入れることによって、場面が生き生きとしてきました。今回は、よみがえった男子の作文を５つ紹介します。

小早川くんと親木くん、竹下くんの作文は、田んぼに入って植えるまでの部分です。「ぼくはなえを右手に持って、田んぼに左足からゆっくり入りながら言った」などという表現は、とてもいいです。

小早川侑輝

「たいき、先に田んぼに入れ。」
と、ぼくが言った。
「ゆうきが先に入れよ。」
と、たいきも言った。
「ほんじゃあ、おれが先に入る。」
と、ぼくが言った。それから、小西さんに苗をもらって、そおっと田んぼに足をつけた。土はにゅるっとしてやわらかかった。
「どんな感じ。」
と、たいきが言った。
「きもちいいぜ。」
と、ぼくが言った。

親木翔平

「ここから入れば。」
と、とし君がなえを植えながらぼくに言った。
「うん、わかった。」
と、ぼくはなえを右手に持って、田んぼに左足からゆっくり入りながら言った。
「どんな感じ。」
と、こう平君が言った。
「へんな感じ。」
と、ぼくは答えた。
一番右の方から、四角になるように左手でていねいに植えた。

竹下健太

「なんかいやだなぁ。」
と、ぼくは言った。
「はやくはいろ。」
と、友だちのしょうたがいった。
　ドローンとした田んぼに入った。にゅるとして、ぼくは、
「きもちわるい。」
といった。

幸田正則

　早速植えた。苗はうまく立った。どんどん植えていくと、ぼくの前に植えた人の所に来た。
「後ろに行きすぎるなよ。」
と、苗を植えながら言った。
「うん。」
としき君が言った。
「どこ植えようかな。」
と、ぼくが言った。
「そこに植えたら。」
と、福西さんが言った。

幸田くんと大西くんの作文は、植えているときの部分です。「ぼくは手をとめて、ふくにしさんを見て、『そお。』と言った。」という表現、いいですね。

大西匠

「おっ、ここずいぶんあいてるな。」
と、ふくにしさんが言った。ぼくは手をとめて、ふくにしさんを見て、
「そお。」
と言った。いねのあいだをちぢめて、
「これでいい。」
と言った。
「おう、それでいい。」
と、ふくにしさんが言った。
「わかった。」
と、ぼくは言った。
　ひできくんが後ろにいるので、ぼくは、
「よう。」
と言った。
「おう。」
と、ひでき君が言った。のこったいねをどうしようと思っていたので、
「いねののこりあげる。」
と、ぼくは言った。
「ありがとう。」
ひできが言った。

■■小学校5年・学年つうしん

蒲公英

2003. 5. 20（火）

No.14

「日記を書こう」シリーズ③

週末の日記を３つ紹介します。泉尾くん、デビューです。

野球の試合

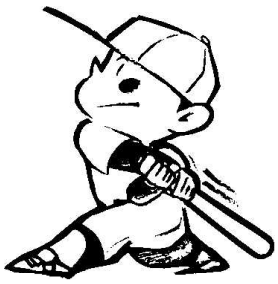
泉尾太紀

今日、野球の試合に行きました。ぼくは、久しぶりに試合にでました。ポジションは、セカンドでした。ぼくは、八番バッターでした。

さあ、打じゅんがまわってきました。一打せきめはさんしん、二打せきめはファーボールでした。

しゅびでは、セカンドにはとんでこなかったです。

次の試合では、ヒットをうちたいです。



ありの列

大西佑季

今日、うら口から出て、ぞうりをはこうとすると、ありの列がありました。

どこまでつづいているのかと見ていると、かた方は、花だんまでつづいていました。お母さんが、「どこかにあまいものがあるのかな。もうかた方はどうかな。」と、言いました。

私は、もうかた方を見に行きました。しかし木の下にかくれていて、分かりませんでした。

去年の三年生の人の調査では**和田くん**は、ありのすのまわりにさとう、しお、バナナ、ぶどうをおいて、ありの集まりぐあいを調べました。その結果、しおには一びきも集まりませんでした。ありは、あまいものの、ところに集まりました。

的場くんは、スナックがしとチョコレートを使って、ありのすきなたべものを調べました。二時間後、チョコレートはなくなり、スナックがしはまだのこっていました。ありは、あまさのつよいチョコレートが大すきらしいです。